

林業新知識

2012
No.703

6

2012年6月1日発行(毎月1回1日発行) 価格708円
昭和33年12月15日創刊(複製特許可) ISSN 0495-1882

目次

技芸の風

「のびのび育て!
山が喜ぶ森づくり」…1
後藤國利さん(大分県)

みんなで作ろう!
「テリハボク種子のクラフト」…6
沖縄県森林組合連合会林業研究会
(沖縄県)

山のよろず講座

「手軽な炭焼き窯キット
『簡単スミヤケール』」…8
文・石井 哲(岡山県)

境界のドラマ

「子や孫と一緒に。
境界を伝える機会」…10
津具森林組合(愛知県)

道具入門 現場の技

「かかり木処理・
けん引伐倒に使える
高い枝にロープを
掛ける技」…12
段木秀夫さん(長野県)

収穫の喜び!

林間・林床の活用術
「多肥で育てる
ギョウジャニンニク」…15
清水守さん(新潟県)

お悩み相談室

「山の購入。
どこを見て
判断すれば…」…17

山を継ぐ

「道づくり
材価に頼らない仕事」…18
古原久弥さん一家(京都府)

こちら

林業普及指導員です…20
栃木県・新潟県

読者コーナー…22

木材市況

全林協からのお知らせ…24

■表紙の人
古原久弥さん(左)・
拓也さん父子
(京都府京都市)。
記事は18～19頁

収穫の
喜び!

林間・林床の
活用術

清水守さん
(新潟県/農林家)

多肥で育てる ギョウジャニンニク①

林内に畑を作る

「一日頑張つて疲れた時は、ギョウジャニンニクを食べて、元気を補給します」。そう話す清水守さん(54歳)は、町役場を3年前に退職。「30年勤めたから第一の人生はこれでいいかな。次は楽しんでもらおう」と、現在は、約2haの所有林で、山林の手入れや野菜・山菜づくりに精を出します。



▲清水守さん

いうマルチ(畝を覆うビニールシート。雑草抑制や土中の水分保持などの効果がある)をして、一番疲れる草取りを楽にしています。

1a当たり600kgの堆肥

水はけがよく、弱酸性の肥沃土を好むギョウジャニンニク畑を作る際、特にポイントになるのが肥料の量です。「堆肥はかなり入れた方がいい」と話す清水さんは、1a当たり約600kgの完熟牛糞と、化学肥料(N15・P20・K15)を1a当たり13kg散布します。多肥により枯死する心配はなく、むしろ、養分に対する反応が良いので、収量を上げるには、このくらいの肥料が効果的です。

畑は、3年に一度くらいのペースで耕し直し、肥料を補充して、養分たっぷりの状態を維持します。この作業はいったん、定植したすべての株を丁寧に掘り起こし、またすぐに戻さなければならぬ大仕事。「日が暮れて真っ暗の中、ヘッドランプをつけて作業するこ

ともありません」。

また、「冬前に一掴みの完熟牛糞を一株ずつ上にかぶせます」と清水さん。追肥の意味もありますが、霜対策として行います。「寒さに強いから、過保護にしなくてもいいと思うんですけどね」。

これだけ手間をかけ、多肥で育てますが、実は成長が遅い上、成株になっても毎年収穫できません。「実生から栽培すると、最初の収穫までは7年。その後は株を休ませるため、次は3年後」と収穫まで時間のかかる山菜です。

苦労する割に収量も少ないギョウジャニンニクですが、清水さんは、作業自体を楽しみながら世話を焼き続けます。(つづく)



▲スギの林内に広がるギョウジャニンニク畑